

令和4年度 平取町総合教育会議（第2回）議事録

開催日時：令和4年12月26日（金）13時30分～15時10分

開催場所：平取町中央公民館 大会議室

出席者：町長 遠藤 桂一

副町長 佐藤 和三

教育長 庄野 剛

教育委員 本間 稔浩

教育委員 和田 与志男

教育委員 小林 明美

教育委員 堀内 敏明

津川総務課長	これより令和4年度第2回平取町総合教育会議を開催したいと思います。開会に先立ちまして、本日の会議につきましては、議事録を作成する関係上、録音させていただきますので、お手元のマイクのボタンを押してから、ご発言されますよう、よろしくお願いいたします。
津川総務課長	■1.開会 それでは、只今より令和4年度第2回平取町総合教育会議を開会いたします。はじめに、遠藤町長からご挨拶申し上げます。
遠藤町長	■2.挨拶 皆さん、こんにちは。第2回の総合教育会議にあたりまして一言ご挨拶申し上げたいと存じます。第2回目はいつもこの時期でございまして、もう本当に師走が迫ってきたというような時期に、大変ご苦労さまでございます。日頃、町政運営について、教育委員の皆様にご尽力を賜りまして、この場をお借りして御礼申し上げたいと存じます。 間もなく令和4年、2022年も暮れようというような時期になっておりまして、今年もコロナの影響が大きかったということもあって、いまだに、最近なかなか町内の感染状況を把握できないというようなことにもなっていますけれども、全体の数としては、増えるような傾向にもあるということでございまして、ある専門家から言いますと、第8波がピークで、収まるのに今までと同じ時間かかるということ言ってる方もいるので、まだ3年ぐらいかかるのかなど。そういう話を聞くとがっかりするところありますけれども、また、引き続き感染防止対策等にご理解とご協力をお願いしたいというふうに思っております。本日の総合教育会議、これによりまして、第6次の総合計画、後期実施計画のローリングを皆様にお知らせして、いろいろとご意見を賜りたいと思っております。コロナもありますけれども、当町の少子高齢化、人口減少というの

<p>津川課長 庄野教育長</p>	<p>が、本当に至る所に影響が出てきて、その対応に非常に苦慮しなければならない時期になってきたかなというふうに思っており、これに対応する事業をどういうふうに進めたらいいかというのが、我々に課せられた責務かなと思っておりますので、いろんなご意見ある中で、一つの方向性を目指すのは非常に苦難のところもありますけれども、一般行政、教育行政においても、今後の課題等の解決に向けて、さらなるご尽力をお願いして、簡単ですけれどもご挨拶に代えさせていただきます。本日もよろしくお願いいいたします。</p> <p>続きまして、庄野教育長からご挨拶をお願いいいたします。</p> <p>こんにちは。令和4年度の第2回総合教育会議、開催にあたりまして、ご挨拶をさせていただきます。本日は、年末の大変お忙しい中、総合教育会議を開催して頂きありがとうございます。日頃より、町教育行政の推進につきましては、特段のご理解とご配慮を賜り、厚く御礼を申し上げます。今年も早いもので残すところ1週間を切ったというような状況でございます。町長のお話の中にもありましたけれども、引き続いている新型コロナウイルスの感染症については、第7波、第8波ということで、北海道は今落ち着いているような状況ですけれども、日本全国に見ますと、過去最多という都府県もあるという状況でございます。今、国の方は、行動制限はしないで、何とか乗り切るというような形になってきております。全数把握もしないような形になって、なかなか学校関係でも、日高管内の各町でどういうふうな状況になってるかっていうのは掴みにくいってような状況になっております。先週、管内の教育長会議がありまして、日高教育局の方には、学級閉鎖、臨時休校等の情報が集まってるということなので、日高教育局の方にも、道立学校を含めて、管内の学校で学級閉鎖だとか、臨時休校等なってる部分については、ぜひ各町に連絡して頂きたい。平取でいうと、うちの町自体も、日高町と部活を一緒にやってる部分もありますので、日高町がどういう状況になっているかということを含めて、ぜひ、町教委の方に連絡をもらいたいというような要望もしてきたところでございます。</p> <p>うちの町も、学級閉鎖、学年閉鎖、臨時休校等も出ておりますし、道立高校についても、11月の末に養護学校が学校閉鎖したということ、学校閉鎖が解除になった時に、養護学校の校長から連絡があったということで、養護学校の方も対応に非常に苦慮し多忙になっていて、町の方に連絡が遅れて申しわけないというような形でのお話がありました。そういうような形で、何とか振興局、また教育局の中で、情報共有ができるような形でという話をしてきたところでございます。ただ先ほどお話し</p>
-----------------------	---

たとおり、行動制限については取らないという形で進んできておりますので、各学校と連携をしながら、ほぼすべての学校教育活動については、感染防止対策を取りながら、また場合によっては延期だとかの措置をしながら、実施をしてきたところでございます。特に児童生徒にとって大事な行事となります、学校祭、文化祭、学習発表会また修学旅行などが無事に実施できたということで、子どもたちの心の成長にとって、大変よかったというふうに考えているところであります。修学旅行の中でも、途中で感染が疑われた部分ありましたが、先生方の対応等も、教育委員会と連携しながら対応していったということもあり、何とか実施することができたという状況でございます。教育委員会におきましては学校教育、社会教育、社会体育、図書館、文化財及び埋蔵文化財関係の事務事業については、中止等もありましたが、昨年と比べると実施できたものも多くあるということで進めるべき事務等についても行ってきているところでございます。また今年度の大きな事業として、町有バスの購入ということで、予算をつけて頂きまして、8月中旬には4500万円弱の契約ということで、町有バスの購入について契約しているところでございます。身体障害者も使えるというような車椅子で乗り込めるバスということもありまして、納車の予定は2月となっているところでございます。また中央公民館の音響設備の改修事業についても、8月に、1150万ほどの金額で契約しまして、1月末に改修が終了する予定となっております。また、アイヌ施策推進交付金を活用した事業としては、公営塾の平取義経塾の開設、また生涯学習課、文化財課、図書館等も事業については実施をしてきているというところで、海外交流事業だけが、相手方の感染状況、また日本の感染状況等もあり、今年度は実施を見送るという形になってございます。また、コロナウイルス感染症対応の地方創生臨時交付金事業についても、それぞれ実施をしてきているところでありまして、町行政の理解と支援によりまして、教育環境の整備、また経済対策等も含めて、充実して行うことができたということで、深く感謝をするところでございます。平取町の教育推進計画がスタートして2年目を迎えるということで、平取町の歴史風土や文化を愛する心豊かな人づくりを目指してという基本理念のもとに、教育行政を進めてきているところでございます。平取町の教育課題については、まだまだ山積している状況でございます。教育推進計画における現状把握から課題解決、目標達成に向けて教育委員の皆様と、より一層協議し知恵を出し合いながら、力を合わせて進んでいきたいと考えているところでございます。町長、副町長をはじめ行政からの指導と、さらなる意思疎通及び連

津川課長	携が図られることを期待するところでございます。本日は限られた時間ではございますけれども、せつかくの機会ですので、忌憚のない意見交換ができるよう、よろしくお願ひしたいと思ひます。以上簡単でありますけれども、教育委員会を代表してのご挨拶とさせていただきます。よろしくお願ひいたします。
遠藤町長	ありがとうございます。この後の議事進行は遠藤町長が議長となり会議を進めて参りますが、この会議の後に、教育委員会が予定されておりますので、概ね午後3時頃を目途に、終了したいと存じますので、よろしくお願ひいたします。
庄野教育長	<p>■ 3. 会議事項</p> <p>それでは早速、会議事項に入らせていただきます。協議及び調整事項 ①の令和4年度全国学力学習状況調査及び標準学力テストの結果について、資料1に基づいて説明をお願いします。</p>
坂本指導主事	<p>それでは会議事項ということで①の令和4年度の全国学力学習状況調査の調査及び標準学力テストの結果ということで説明をさせていただきます。説明の方は坂本指導主事の方から説明をしていただきますけれども、町長、副町長におきましては、総務文教常任委員会での説明、また議会での行政報告の中でも説明をしております、何回も聞いてるとこのような形になると思ひますけれども、よろしくお願ひしたいと思ひます。坂本指導主事、説明をお願いします。</p>
	<p>はい、それでは資料1に沿って説明をさせていただきます。全国学力学習状況調査、年度別推移表ですけれども、小学校については、理科、国語が全国平均とほぼ同様、算数が低くなっております。全道平均の比較では、3教科ともほぼ同様となっており、日高管内の比較では、平取町は大きく上回っているという結果になっています。中学校では国語、理科が全国平均とほぼ同様で、数学が低くなっています。小学校同様、3教科とも全道平均とほぼ同様また日高管内を大きく上回っているという結果になっております。小学校の平成30年のところは、今の中学校3年生が小学校6年生のときの成績の結果となっています。まだA問題、基礎基本。B問題、応用問題に分かれていた時期なので、単純に比較できませんけれども、国語、数学、理科ともに、正答率が上昇している結果となっています。裏面をご覧ください。北海道教育委員会の公表用様式となっております。円グラフについては、各教科の領域別結果となっています。母数が低いため、歪な円となっておりますけれども、小学校の算数では、図形の領域が低くなっています。中学校では国語の書くことが大きく上回っておりますが、数学では、データの活用が低く</p>

<p>庄野教育長</p>	<p>なっているという結果になっております。続いて、令和4年度の標準学力テストの結果についてですけれども、第1回の総合教育会議でも触れましたので、簡単に説明していきたいと思います。まず小学校については、全体的な傾向としては、受験教科平均で見ると、2年、3年、5年生に日頃の指導の成果があらわれておりますが、4年生に課題がある結果となりました。教科では国語は成果が出ておりますけれども、算数に課題があります。中学校については、全体的な傾向で見ると、受験教科平均で見ると、特に2年生で全教科、全国平均を大きく上回っております。全教科が全国平均を上回るか、どの学年も全教科が全国平均を上回るかほぼ同様、特に英語Aについては、成果が大きくあらわれています。あくまでも、平取町の平均としての分析です。特に小規模校については、分母数が少ないために、個々の成績、経年変化の分析が必要かと思われます。個人差が大きく、学力が極端に低い子が目立つという結果にもなっております。個々に合わせた指導はもちろん必要でありますけれども、問題に向き合う学習意欲をどう高めるか、一人一人にどう目標を持たせるか、各学校で取り組みを進めているところです。以上です。</p> <p>はい。今、説明ありましたけれども、続けて、2番、令和4年度第3学年進路希望状況調査と平取義経塾カウンセリング状況について、続けて説明してください。</p>
<p>坂本指導主事</p>	<p>はい。②の令和4年度平取町内中学校第3学年進路希望状況調査についてご説明いたします。資料2をご覧ください。こちらは12月8日現在の日高地区校長会において集約した結果について抜粋しております。平取中学校は平取高校10名、鷓川高校1名、苫小牧公立高校8名、苫小牧高専2名、札幌公立高校2名、札幌・苫小牧以外の公立高校1名、道内単願私立高校8名、高等養護学校2名、合計34名となっております。振内中学校は富川高校1名、静内高校2名、道内単願私立高校4名、その他の学校2名、合計9名となっております。また参考までに、町外の平取高校希望として、富川中学校から1名、日高中学校から1名の希望者が出ている状況となっております。②については以上です。続きまして③の、平取義経塾カウンセリング状況についてご説明します。資料3をご覧ください。令和4年12月1日現在の平取義経における登録状況について記載しております。学校別では、平取中学校が生徒数99名に対し、登録77名、登録割合77.8%、振内中学校が生徒数24名に対し、登録16名、登録割合66.7%、中学校全体で生徒数123名に対し登録が93名。登録割合は、75.6%という結果になっております。続きまして平取高校が、生徒数44名に対し、登録33名、登録割合75%という結果</p>

庄野教育長	<p>になっております。なお平取高校3年生につきましては、本日現在の状況として登録者14名のうち、8名が4年制大学等への推薦入試による合格が報告されております。私からは以上です。</p> <p>坂本指導主事の方から説明があった通り、資料1の方で、平成30年の小学校6年生、経年変化になるんですけども、その子供たちが今、令和4年の中学校3年生ということで、下段の令和4年の結果になっているというような形です。小学校の平成30年の結果については、全国・全道と比べて、かなり低い部分。管内で比べても同様と、何点か高くなっているという部分はあるんですけども、それが中学校の方で、令和4年はかなり伸びてきているというような形になっておりまして、全国ではほぼ同様か、やや低いという部分もありますけれども、全道平均ではほぼ全道と同様、管内平均ではかなり高くなっているというような状況です。以前からも説明しておりますけれども、傾向として小学校ではある程度の部分ですけれども、中学校でかなり伸びてきているというような状況で、これについては、学校がもちろん学力の部分については大きな影響を担っているということで、各学校においても、かなり個別に最適な学習について、対応してきてもらっている成果が上がっているんじゃないかという風に思っております。</p>
遠藤町長	<p>中学生を対象にしておりますので、中学生の70%近い方が塾に登録されている。この辺の好影響というのはどうなんでしょうか。どう評価したらいいのか。</p>
庄野教育長	<p>さっきお話した通り、根本的な部分ではやっぱり学校が子どもたちの学力については影響があるということで、かなり学校の方も、学力テストの結果、それぞれの子どもの状況をしながら、どこを伸ばせばいいとか、苦手な部分をこういう風にとりあえず、かなり先生方も学校全体として改善してきているところが出てきているというふうに思っておりますし、塾の部分では、家庭学習だとか学習習慣の定着という部分で、学校帰りに寄って学習をしたりという部分で、そういう面がいい面が出てくるのではないかなというふうには思っております。ただ次のところで、平取高校の進学、町内の進学率っていうのを見ると、なかなか厳しい状況学力が付くと、やはり町外に出ていく部分があるということで、当初開設した時の平取高校の生徒確保と中高校生の学力を上げていくという部分では、なかなか高校の生徒確保という面では厳しい状況というようなことになっております。</p>
本間教育委員	<p>この学テが始まってからもうしばらく時間がたっているんですけども、今年の中学校の成績見てもらったら分かるんですけど、小学校の時の6</p>

	<p>年生っていうよりも、その以前から子どもたちは、もちろんすごく頑張っているっていう姿は、もう学校訪問の時などに見せていただいたんですけども、やはりこれ私の個人的な見解ですけど、先生にめぐり合って、子どもたちがすごくやる気が出たっていう学年の子どもたちが、今の3年生の子どもたちなのかなっていうふうに思うんですよね。先生がいいとか悪いとかっていう意味じゃなくて、その時にめぐり合わせって言ったらちょっと語弊あるんですけども、そういった環境にあった子たちだったのかなあという風に思います。特に平取中学校の2年生ですけど、来年楽しみだなんていう子どもたちも増えてきていますし、そう考えるとやっぱり小学校の時から、基礎的な学習っていう意味では、非常に最近の先生方がものすごく力をつけて、新しく来た新任された先生方もすごく勉強されて力をつけて、何とか子どもたちの為っていうのが、そういうところが訪問に行ってみさせてもらおうと、垣間見れるんですよね。だから少しずつは変わってきてるんだろうなって、だからもう少し、時間はかかるでしょうけども、中学校に入って、すごく伸びてきているっていうのは、これからまた来年の結果見たらわかると思うんですけど、なんかすごく期待している部分なのかなあというふうに感じております。以上です。</p>
遠藤町長	<p>全体的に先生方の教える技術ですとか、気持ちというか、そういうのが上がってきているんでしょうかね。</p>
本間教育委員	<p>そうですね。授業見ても、いや、凄いなって。今までと違うとか違わないとかちょっとよく分からないんだけど、子どもたちがこうやる気っていうか、目が輝いているっていうか、45分間、一生懸命やってる子どもたちが多いんですよね。もう少し前の話で申し訳ないですけど、お客さんなのか生徒さんなのか分からないなっていうような子どもたちも中にはいたんですけど、結構みんな切磋琢磨し合ってるって姿が見られる。やっぱりこれは先生なり、校長先生なりのそういった影響なのかなっていうのが垣間見れるので、いい方向に向かっているのかなあというふうに感想を持っています。</p>
遠藤町長	<p>他に何かございますか。</p>
堀内教育委員	<p>今回振内地区から平取高校を卒業する子で、F君とNさんっていう2人が国公立高校に合格しまして、非常に喜んでおります。2人とも親が母子家庭という状況がありまして、塾とかっていうのは非常になかなか難しい家庭環境にあると思われまして。その中で義経塾というものが、非常に力になったように思います。だから例えば、もし義経塾がないと、非常になかなか大変だったんだろうなど。それは仮定でしかありませんけ</p>

<p>遠藤町長 和田教育委員</p>	<p>ど、そういう部分では本当に2人の人生を変えるぐらい義経塾が影響したと思います。本当にありがとうございました。以上です。</p> <p>他に何かございますか。</p> <p>今、堀内委員さんがおっしゃったように、やっぱり地域の声を聞いても、本当に義経塾は有難いって声を本当に多数聞かせて頂いています。その中で今月の20日の日に、日高管内の授業力向上地域別研修会っていうのがありまして、それに参加させてもらったんですけども、もうバラバラではなしに、組織的に取り組みをしていこうということで、教育局主催でやってまして、平取小学校の公開研に行かせてもらったんですけども、公開研を見ても、中学校の先生方が全員、平取小学校の公開研に参加している。そういうのを見ても、先ほど本間委員さんがおっしゃったように、先生方の意識が大分違うんじゃないかなというふうに本当に思いました。以前でしたら、仕方なしに来てるような先生方はっかりだったんですけども、その意識の違いが今表れてるんじゃないかなというふうに思っています。ちょっと気になったのは、学テの方でも、児童質問用紙っていうのがありまして、これに、「自分には良いところがあると思いますか」という設問があるんですけども、この回答が、全道、日高管内とか、小中ともに低い回答なんですよ。これが本当に私ちょっと気になるなというふうに思っていて、自己肯定感であるとか、自己有用感であるとか、これを褒めて伸ばすということがこれからも大切んじゃないかなというふうに思っています。以上です。</p>
<p>遠藤町長 小林教育委員</p>	<p>ありがとうございます。他どうですか？小林委員どうですか。</p> <p>本間委員が言われたように、私も11月と12月の学校の公開授業を見させていただいたんですけど、子どもたちが生き生きとして、あと先生方も、その授業がたまたまそうだったのかもしれないですけども、とてもなんか私たちが見ても、春の時から成長した子どもたちの姿を見て頂いたなっていうのがありました。一部の先生が頑張っているとそれに引っ張られて、他の先生もいい授業をして頂きたいなと思いながら見てきました。あと、先程、和田委員が小学校の方に、平取中学校の先生が皆さん行かれていたって言ってたんですけども、逆に、中学校の公開研の時に、平取小学校の先生方も割と多く来ていたような感じがしたんです。今まで割と小学校と中学校の交流っていうか、あまりなかったのが、幾らかでも良くなってきているのかなと思って見させていただきました。</p>
<p>遠藤町長</p>	<p>学力テストだけが、そこを推し量るものではないと思うんですけど、必ずニュースとかでは、低い地域等が出ますよね。どうしてもなんか目</p>

	<p>に入ってくると、やっぱりなんか、日高管内みたいな括りでした時、低いんだなみたいなそういうところを思っちゃって。ただ、個別にうちの結果だけ見ると、相当、学校現場での努力とか、塾もそれ相応の効果を示してんじゃないかなという気がします。学力テストについては、このぐらいでよろしいですかね。それでは進路状況と平取塾について何かございますか。</p>
庄野教育長	<p>最新の先週末の状況で、振内中学校なんですけれども、平取高校は0だったんですけど、1に変わりました。静内高校が、2が1に変わったということで、町内からは11。町外から2ということで13に変わって、貴重な1人が増えたっていう形になっております。</p>
遠藤町長	<p>わかりました。振内からの富川っていうのは、何かあるんですかね？これが、うちに来てくれると良いんですけどね。</p>
庄野教育長	<p>やっぱり環境を変えたいっていうのがあったりして、そういうことなのかなと思います。ここ何年か平取中学校は、苫小牧東がかなり多いですよ。あの子が行くから自分もみたいなどころもあって、苫小牧東はここ何年かすごい希望する生徒が増えているという状況です。また以前から話してる通り、高校の授業料負担がなくなったり、軽減されたりということもあって、単願私立がかなり多いような状況です。ただ、町から出て行くってことになる、経済的なものがないとなかなか難しい部分があるので、そういう点からも結構頑張ってるっていうような形が見て取れるような状況なのかなっていうふうに思います。</p>
遠藤町長	<p>私立が多くなっているんですかね。</p>
庄野教育長	<p>もちろん学力の関係もそうだけど、部活とかで、今までは授業料高くて、その下宿したりだとか、寮入ったりだとかっていう部分で、「やっぱり地元」ということあったのが、やっぱり出ていくのが多くなってきたっていう意味では、選択肢が広がったっていうふうに考えてます。</p>
遠藤町長	<p>その他の学校っていうのは何ですか。</p>
庄野教育長	<p>通信制です。</p>
遠藤町長	<p>高校魅力はちょっとまたうちの方にもありますけども、今までも13名来ていただけるといようなことで、これを何とか地域連携特例校で20というように一つのボーダーを引かれているところもあるので、何とか、そのためにいろいろとやっていきたいなと思います。振内中学校の塾は通っているんですか。</p>
庄野教育長	<p>通ってる子もいるし、月2回振内支所の二階でやってるっていうことで、その時に集中して来ている子も多いという形です。塾の方も、うちの塾を開設した目的が子どもたちの学力と平取高校の進学率っていうことも</p>

遠藤町長	<p>あるので、かなり塾の中でも、強制にならないような形で、平取高校も進路先としては、そのあとの、推薦だとかそういう枠があるといった部分のお話をしてもらって、平取高校でも、十分その先が開けるような形は十分取れるよということは話をしてもらっています。</p>
山田課長	<p>はい、ということですが、③までよろしいですか。それではこちら側から、まず第6次の実施計画についてご説明いたします。</p> <p>まちづくり課長の山田でございます。私の方から、資料4でまず財政計画についてご説明させていただきます。着座にて説明させていただきます。それでは資料4をお開きください。一般会計における平成30年度から令和7年度までの財政計画を表にしております。令和3年度までは決算額、令和4年度は決算見込み額となっております。来年度予算の基礎となる令和5年度を中心に説明をさせていただきます。特に年度を申し上げない場合は、令和5年度の列の額をお読み取りいただければと思いますのでよろしくお願いたします。それではまず歳入についてですけども、項目1町税については令和5年度において5億508万7000円を計上しております。今年度決算見込みからの推計によるものとなっております。続いて歳入の4ですけども、普通交付税については公債費のうち、交付税措置がされるものなどを、試算を含めて30億969万8000円としております。項目5でございます。特別交付税につきましては、地域おこし協力隊の活動費など、特別交付税措置が見込まれる事業などを見込んで推計した数値となっております。項目8ですが、国庫・道支出金ということで、国・道からの補助金などの交付見込み額の計上となっております。項目11の寄付金については、令和4年度決算見込みから5000万円増の2億円で見込んでいます。ふるさと納税での増額を目指して見込んでおります。項目13の基金繰入金につきましては、基金からの繰入について5億3628万7000円としております。項目14町債については計上事業に係る臨時財政対策債を令和5年度以降、3300万円としまして、投資に充当する起債を5億2990万円計上して、合計で5億6290万円を見込んでいます。主に過疎債という借金を充当するような形を見込んでおります。続きまして歳入についてですけども、項目1人件費については町の任用計画などを基本に推計して12億7947万7000円としております。項目2の物件費については、需用費、役務費、委託料、各種使用料など、いろいろな科目が累積したもので、9億5231万1000円で計上しております。4の扶助費については、障害者、高齢者支援及び子育て世代の医療費助成などの経費として、4億6396万3000円の計上となっております。項目5の補助金については、衛生組合、消</p>

防組合の負担金、各種補助及び施策推進に向けた補助金等で 5 億 8331 万 6000 円を計上しております。6 の公債費については、新規の起債などを加えて、償還額を計上しております。令和 5 年度は 8 億 3313 万円で、令和 7 年度には 9 億 514 万 8000 円と推計をしております。項目 7 の積立金については、基金利息ふるさと納税などを想定して、令和 5 年度以降 8400 万円を計上しております。項目 9 の繰出金は、特別会計における一般会計からの繰入金の総額として、7 億 4871 万 2000 円を見込んでおります。項目 10 の投資的経費は、総合計画における事業実施計画の一般会計分の事業の総額を計上しております。以上、説明申し上げた歳入歳出の内容によって、令和 5 年度の財政計画額は、現段階ですけれども、69 億 9493 万円の見込みとなっております。下の欄の基金残高の欄ですけれども、事業執行に必要な財政の取り崩しを行った後の基金の残高の見込みとなっております。令和 7 年度で 8 億 6720 万 6000 円の基金残高になるものと推計しています。その下の欄は起債残高ということで、令和 7 年度 68 億 4618 万 8000 円と推計をしております。今、この借金を返している額が、非常に増えていて、歳出の公債費、6 番のところは令和 5 年度がもう 8 億、令和 7 年度は 9 億台ということで、ちょうど、温泉ですとか病院の方の償還の方が始まっているということもありまして、さっきの額が増えているような形で、逆にちょっと基金の方が少し目減りをしているというような財政状況なんですけれども、12 億ほど借り入れした温泉の借金の方が、令和 8 年度ぐらいに終わってくるような形です。病院が過疎債の部分の大きいところが、令和 9 年度ぐらいに終わってくるということなので、この後も、ちょっと暫く厳しい状況続くんですけど、色々とやり繰りしながら、その 8 年 9 年の時に色々な事業が進められるように、精査していきたいと考えております。財政推計については、以上でございます。続けて、A3 の資料で、その事業実施計画の中身を少し見ていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。時間ないのでかいつまんで説明させていただきます。1 ページ教育文化の分野ですけれども、事業番号 4 ということで、学校施設個別暖房整備事業ということで、こちらについては、老朽化が進む学校の個別暖房を、計画的に整備更新する事業となっております。今後においては紫雲古津小学校、貫気別小学校で整備される計画となっております。続いて 2 ページ目をお開きください。事業番号 15、中央公民館整備事業でございます。計画的な整備により、施設の維持と利便性を図る目的で実施をしております。令和 6 年度から 7 年度までの 2 ヶ年で、館内の窓改修を実施する予定となっております。また教育長の挨拶であった通り、今年

度において、音響機器の更新等を行っているところでございます。続いて3ページをお開きください。事業番号34、二風谷地区二風谷コタン整備事業でございます。アイヌ政策推進交付金事業となりまして、平成26年度策定の基本計画に基づいて、萱野茂資料館、アイヌ文化伝承館などの施設がある匠の道ゾーンというところに、匠の工房、担い手の工房の整備を図ろうという事業となっております。令和5年度に既存の建物を解体しまして、新たな工房を整備したいと考えております。続いて保健、医療の分野についてですけれども、5ページをお開きください。事業番号の49、かつら園の大規模改修事業でございます。事業主体は平取福祉会です。改修の内容は主に水道配管の更新となっております。令和6年度に計画をしております。続いて産業の分野ということで、事業番号57、親水公園整備事業です。せせらぎ水路等を改修する計画となっております。令和7年度に、親水池を改修しようと思っていたんですけども、そちらを少し前倒しして、6年度に実施という計画変更をしているところです。続いて6ページお開きください。事業番号63、新規就農者用リース農場整備事業です。これまで新規就農者が施設等をリース形式で取得してはいたんですけども、このところの資材の高騰ですとか、新規就農者の支援制度がいろいろ変わってきたことで、ちょっと方向転換して、これから規模縮小する農家さんですとか、もう離農する農業者の方から、なるべく中古の施設等を譲り受ける第三者経営継承の就農支援ということに繋げていく計画に、シフトしていこうと考えているところでございます。それと事業番号70、就農チャレンジ農場整備事業。大規模の施設園芸農場を整備して、雇用型就農を創設することで、産地維持を図りたいという事業になってはいますが、希望する単身者ですとか、なかなか、受け入れ体制がないというところで、少し多様な形態で受け入れられるような施設を作りたいというような計画となっております。続いて7ページをお開きください。77番、森林環境譲与税活用事業です。森林環境譲与税を財源に森林整備に対する助成ですとか木育事業等をこちらで行っています。令和4年度以降は、担い手の育成事業を展開する計画としていて、少し事業費が増えているような形になってはいます。続いて生活環境分野ということで10ページをお開きください。116番の事業になります。バス運営費の補助事業となります。道南バスに対する運営経費の赤字補填となっております。貫気別地区の路線は、今年度から午後便がすべて運休となっております。デマンドバスで対応しているところです。路線バスは、今、午前の1便を残すのみとなっておりますけれども、次年度以降は午前便も運休が検討されているところとなって

います。関連して 117 番、地域公共交通活性化事業ということで、アイヌ政策推進交付金の事業でデマンドバスの運営経費となっております。ご説明したとおり、令和 5 年度以降、貫気別の路線バスの午前便が振替となる代替交通が必要となるため、事業費を増やしているところでございます。続いて 11 ページをお開きください。事業番号 121 番、振内函渠工に伴う雑排水ポンプ場移設事業となります。振内地区の国道妻恋橋付近の改良事業に伴って、支障となる施設及び本管の移設工事を行うという計画となっております。工事については国との協議によって、令和 5 年度以降、移転補償が見込まれるので、その見込みで計上しているところでは、131 番、エゾシカの捕獲奨励金事業になります。エゾシカの捕獲奨励金の支出、処理施設への運営費並びに解体処理手数料についての支出となります。エゾシカについては、年々捕獲量が増えておりまして、当初計画と比較して、全体事業費も増えているという状況になっております。12 ページを、お開きください。133 番、共同墓の整備事業になります。今年度、本町地区に共同墓を整備することとなっております。令和 5 年度には、その時に整理をする各地区にある無縁墓、こちらをどうするかということをお自治会に確認をしまして、その意向に沿って、撤去なりをする経費として、こちらを計上しているところでございます。139 番、空き家対策推進事業になります。人口減少等で空き家が増えている状況にありまして、その空き家の改修や解体費用に対する補助を行っているところです。近年は老朽化が原因で、いわゆる危険家屋みたいなことになる不良住宅も増加傾向にありますので、所有者や相続人調査もあわせて行って、6 年度以降、できれば国の補助金も活用するような方向に、事業を進めていきたいなというふうに計画をしているところでございます。続いて 13 ページ 146 番、電気自動車等急速充電器整備事業になります。これについては、国庫補助金等を活用して、電気自動車の放充電設備と、電気自動車を導入する計画になっておりまして、1 月 6 日に、電気自動車が公用車として導入される予定になっておりまして、それを平日は職員が公用車として使って、土日、祝日等は、カーシェアリングということで、手続きを頂いて、町民の方ですとか、観光客の方に電気自動車を試していただきたいと考えております。続いて 15 ページから、3 年度に提案をした 13 項目の事業ということで書かれているところがありますので、こちらについてはお読み取りをいただきたいと思っております。続いて 16 ページ。今年度新規で計画している 13 項目の事業になりますので、こちらをご説明いたします。事業番号 1、自治体行政システムの標準共有化事業となります。国では、個々の自治体で運用して

いる基幹系の情報システムについて、令和7年度を目標にシステムの標準化を行おうとしています。標準化を行って無駄をなくすっていうことを目指してるんですけども、標準化に必要な改修費用について、全額国費で賄われる予定となっております、令和5年度は、標準化に移行するための分析調査費用ということで計上されているところです。事業番号2、ゼロカーボン実行計画策定事業ですけども、2050年までの二酸化炭素排出実質ゼロの達成に向けて、スケジュールと具体的な政策を明確化させるための実行計画の策定を目指しているところで、2050年までの再エネ導入の目標設定、施策の検討を行って、実行計画の区域施策編の策定というところまで進めたいなという事業となっております。3番については、農産物加工センターの改修事業ということで、味噌づくりなどを行っている施設がかなり老朽化しているということで、まず、貫気別を令和5年に改修して、令和6年に振内の加工センターの方も改修したいという計画となっております。事業番号の4番、障害者支援施設のすずらんの整備改修事業になります。こちらは、築35年たったということで、老朽化が進んでいるのと、利用者が高齢化していることもあるので、スロープを付けたり、共用部分も手すりを付けたりっていうような改修工事なんかを考えているということで伺っております。事業番号5番、小平滝沢北島線の改良舗装事業になりまして、小平地区で、令和3年度に町道認定したところを、さらに改良工事をするという事業となっております。事業番号6番、上団地線の改良舗装事業ということで、こちらは未舗装の区間について、大分、路盤が変状してしまっているの、その辺を改修していきたいという事業となっております。7番、スクールバス購入事業です。教育長の挨拶にもあった事業でございまして、振内中学校の統合に伴って中学校校区の生徒を平取中学校まで送迎するために、20人乗りのスクールバスを購入する計画となっているところでございます。事業番号8番、平取高校魅力化プロジェクト事業になります。具体的な内容は、この後の会議事項でご説明いたします。主に協議会の開催経費やPRのための広報に要する経費を計上しております。9番、テレビ中継局放送機更新事業となります。地上デジタル放送のサービスの提供に向けて、平成21年に作った川向の中継局があるんですけども、そちらのものがもう耐用年数を超えてくるということで、どうしても更新が必要な事業となっております。事業番号10番、地域公共交通計画策定事業になります。こちらについては、先ほど申し上げた貫気別の状況などから、デマンドバスの自主運行ですとか、財政の確保を始めて、いろいろ確実にやっていく必要が今後あるということで、そういった補

<p>遠藤町長</p>	<p>助を受けるためにも、この地域公共交通計画というものの策定が必要になってくるということで、こちらを、令和5年度から取り組みたいというふうに考えております。事業番号11、役場庁舎の改築事業になります。昨年度、本町市街地のランドデザイン計画というものを策定したんですけども、そちらに基づいて、老朽化した役場本庁舎を改築して、ふれあいセンターびらとりへの集約化を図りたいという計画となっています。まず7年度から基本構想、基本設計ということで費用を計上しているところです。続いて17ページ、事業番号12、農村整備事業ということで、農道橋の点検、診断の事業となっていて、令和7年度に荷負沢橋の点検と、機能診断をするという計画となっています。事業番号13番、本町町有地の整備事業になります。旧病院跡地の有効利用ということで、こちらについては、ご案内のとおりバイオマスセンターができて、今、認定子供園を作っているところなんですけども、こちらの整備が終わったら、あそこの一帯を駐車場ですとか、排水の施設をきっちり整備をして、最終的に整えたいと考えているところで、それを5年、6年の2ヵ年で実行したいという計画となっております。大変雑駁ですけども、令和4年度の新規事業について説明いたしました。以降、特別会計の部分ですとか、一部事業組合の事業についても記載があるんですけども、お読み取りいただければと思いますのでよろしくお願いいたします。以上で実施計画についての説明を終わりたいと思います。</p>
<p>庄野教育長</p>	<p>今、説明申し上げましたけど、本当にかいつまんだような説明になっておりまして、新規については、一通りご説明をさせて頂いたということでございます。中には審議会の委員の方もおられるということもあって、折角ですので、内容について何かあれば、ご質疑等受けたいと思いますけども、如何でしょうか。</p> <p>新規事業の関係で、まちづくり課が地域を回って説明会もやってきたということで、スクールバスの購入の関係で、振内中学校の統合を前提としてということで、教育委員会としてはできれば令和6年の4月についていうふうには思っておりますけれども、地域からの意見だとか、こないだも町長の方にも要請に来たということもありまして、再度、地域に説明会等を行っていくということで。予算的には5年度に載せてないと、令和6年の4月に統合する部分に間に合わなくなるっていうことがあって、予算に載せているっていうことなんですけれども、これが決定ということでは全くないということなんで、もちろん理事者との協議、また議会との協議、地域との話し合いもあるということで、地域で「もう決まっているんですか」みたいな意見が、後に出てきたっていうこともあ</p>

	<p>るので、町長の方にもお話しましたが、理事者と、あと議会とも話しながら、地域の状況を見ながら、対応していきたいというふうには思っております。統合問題を考える会では、丁寧な説明をとということもありますので、委員会としては、そういう意向でっていう形では考えておりますけれども、その点についても、今後、今年はまだ年終わってしまうということで、明けた段階で、町長、副町長とも話をしながら、進めていきたいというふうには思っております。また教育委員会の中でも、合意をとりながらということで、委員の皆さんにも説明しながら、対応していきたいというふうに思っています。よろしくお願ひしたいと思ひます。</p>
堀内教育委員	<p>役場庁舎改築事業の件なんですけど、事業説明の中に、老朽化した役場本庁舎を改築し、ふれあいセンターびらとりとの集約化により、町民の利便性を向上してあるんですけど、これちょっと意味がどういう意味なのか。役場庁舎も改築して、ふれあいセンターびらとりも改築するという考え方なんですか。それとも文章の書き方が違っているということなのですか。</p>
山田まちづくり課長	<p>ちょっと表現がわかり難かったかもしれないんですけども、集約化ということで説明させていただいたとおり、昨年整備したグランドデザイン計画の中では、今のところ本町地区のふれあいセンターが、平成12年に建っているんですけども、アンケートでも、役場機能が二分化しているのが利便性が悪いっていうところのアンケート結果も多いということで、今のふれあいセンターの方に、役場庁舎の方が入ってくるような形で、両方、今ある場所で改築っていうことではなくて、既存の建物は利用せずに、ふれあいセンターとの合築みたいなことと改修っていうイメージで、そこを中心に考えていきたいっていう、現在のところの計画になっています。</p>
堀内教育委員	<p>そうすると老朽化した役場本庁舎を改築するというのは、あくまでも暫定的な小さな修理みたいな改築なんですか。この文章を読んで頂ければ。</p>
山田まちづくり課長	<p>今申し上げたとおり、後年でふれあいセンターと役場を集約したいと思っておりますので、役場の改修については、現在のところ、必要最低限のもので、改修計画ができて実際に改修が進むまでは、必要最低限のものにとどめていきたいというふうに考えています。反対に、システムですとか、そういったものを役場からかなり移さないと駄目なものもあるので、その辺のタイミングを図りながら、もしかすると必要なものを先に移設するですとか、そういうこともあるかもしれないんですけども、細</p>

堀内教育委員	<p>かく言うともういった内容をイメージして考えております。</p> <p>わかりました。非常に内容は分かったんですけど、この文章の書きまわしがちょっと伝わってこないということで、ちょっと変えたほうがいいと思います。</p>
遠藤町長	<p>要するに役場も、もう、築 50 年ということで耐震化もされてないというようなことで、建て替えの時期を検討するというふうに迫られているというようなことをごさいますして、役場機能が今分散しているのを、行政サービスにのっとれば、集約することが方向性としては間違っていないかなというふうに思っています。今まだ、例えば消防の建て替えとか、そういう他の公共施設もありますので、そういうものをひっくるめたグランドデザインというようなものの中で、検討してるというようなことで、これから色々まだ変更が生じる可能性もありますけども、行政機能として集約すべきというようなことを、念頭に置きながら検討していくというふうになるかなと思います。他、何かございますでしょうか。</p>
和田教育委員	<p>139 番の生活環境の件でお聞きするんですが、空き家対策助成ということで、令和 3 年度と 4 年度に出ていますけれども、何戸か使った実績はありますか。</p>
山田まちづくり課長	<p>はい。ありがとうございます。利用は、ちょっとお手元に資料持ってきてないので、違ったら申し訳ないんですけども、今年度から昨年度にかけては、昨年 5 件で、今年 7 件だと記憶しており、大体それぐらいの利用があつて、大半が取り壊しの方で、改築の方は、年に 1 件から 2 件ぐらいという感じになっています。</p>
和田教育委員	<p>はい。ありがとうございます。やっぱり取り壊しの方で結構、需要があるんじゃないかなというふうに思いますし、また本当に空き家が、平取町、結構目立ってきたなというふうに思っていますし、また町外から来られる方々のために、やっぱり整備するっていうか、平取町は不動産屋さんがないものですから、対個人対個人でやられてる方が多いものですから、できれば行政が矢面に立ってというか、やっていただければ非常にありがたいなというふうなことを思っています。この間も平取町内のアパートに住んでいる方ですけれども、将来はずっと平取町に住みたいので、一軒家に住みたいということ、ご紹介頂きたいってことだったんですが、ちょっと私も分からなかったんで、まちづくり課の方に聞かせて頂いて、繋げさせて頂いたというのがあるんですけども、解体の方もそうですけれども、町民と繋げていくといいですか、行政の方が、町民に対して、こういう空き家ありますよってということのお知らせっていうか、そういうのも本当に大切かなというふうに感じました。</p>

遠藤町長

ので、お聞きさせていただきました。

今も、空き家バンクという仕組みはあって、登録していただければ、積極的に情報提供はするというようなことになっているんですけども、なかなか、うちの空き家どうぞみたいな方が少ないっていうのが現状ではあるんですよね。だから、その辺もうちょっと力を入れながら、如何に情報を得るかというようなこともあって。まだまだ使えるよというような空き家ならまだいいんですけど、もう壊すしかないようなところもあって、それは本当に所有者も不明で、行方不明とか、追っていても、たどり着かないというような方もいて、ある程度強制的なことでやるような場合も出てくるかなと思いますので、本当に危険な状況にもなっているようなところもあるものですから、その辺さらにちょっと課題として、いろいろやらなきゃならないところもあるかなと思っています。その他如何ですか。

本間教育委員

今の空き家とか公営住宅もそうなんですけど、誰でも良いっていう訳にはいかない方もいらっしゃるんで、私ごとで悪いんですけど、とっても隣にこられたら耐えられないっていう方も世の中にいらっしゃいますので、そこら辺の吟味とか、例えば「住宅に入っているですよ」「公営住宅に入っているですよ」って審議会みたいな物があるんですよね。そこで、皆さんで協議されるんですけども、町の方が良いよって言った事案に対して、「どんな人」とか「大丈夫なの」とかということは、多分言いつらいと思うので、事務局あたりで少し振るいにかけて頂くと、非常に治安に対しても安心して暮らせる部分もあると思うので、そこら辺もう少し吟味して欲しいなっていうのは、ちょっとだけ付け加えさせていただきます。それと私がこの審議会の会長やってる頃から言っていたんですけど、事業説明欄のところの書き方について、先ほども言われていましたように、もう少し、町民が見て納得できる「書き方」、「言い方」、「言い回し」があると思って、何度か言ったこともあると思うんですけども、例えば、30年50年経ったら、老朽化するなんて当たり前のことなんですから、例えば、町民の多くの方からの希望があつてとか、やっぱりそういう行政と対町民とのやりとりの中で、やっぱりこれはまずいよねっていうのが多分あると思うんですよね。だからそういった書き方と、いわゆる証拠に基づいた適正な税金の使い方って言ったら怒られますけど、そういったこともあるんですよっていうのを、説明欄に少し書き加えていくと、「ああ、そっか」という町民の方も納得して頂けるんじゃないかなっていうふうに思うんですよね。今後のこと、色々大変でしょうけれども、そういったことで、進んでいってくれたらなというふう

遠藤町長	<p>に思っています。よろしくお願いします。</p> <p>住宅の選考の関係は、住宅選考委員会という、町民からなる方々がいろいろ決めていただくんですけど、公営住宅というのは、一般的なアパートとかとちょっと性格が違ってまして、例えば、母子家庭ですとか、そういういわゆる社会的に弱い方々が優先して入るといような法的な決まりもあって、迷惑をかけそうな人ということで選考するということは難しい状況で、ただそうあった場合、とにかく管理する側としては、隣に迷惑をかけないで住んでもらうっていう一つの条件も当然のことなので、そこはもう積極的に注意するといようなことになると思うんですけども。結構、公営住宅の隣同士のトラブルとかというのは、多いのが実態でして、管理する側としては更に気を配って対応して参りたいというふうに思っています。</p>
山田まちづく り課長	<p>資料は、ちょっと地域説明会でもちょっと分かり難いって言われたりしたところもあって、今、本間委員がおっしゃられたとおりに、老朽化とかは、当たり前なことなので、老朽化した施設で、「なぜ、ここが」っていうところが知りたいってということだと思あるので、その辺について、検討してそういったことが書けるように改善していきたいと思います。ありがとうございます。</p>
遠藤町長 堀内教育委員	<p>その他、ございますか。</p> <p>非常に漠然とした雑駁な質問なんですが、この事業計画においての地域からお願いしたものを拾い上げてるとか、そういうような事業例っていうのは、大体、何%ぐらいあるんですか。</p>
遠藤町長	<p>ダイレクトに、住民からの要望にのっとっているといような物ということですか。</p>
山田まちづく り課長	<p>まず例えば、13の新規事業の中でも町道整備なんかは、明らかに自治会ですとか、利用される方の意見を自治会なり公的などが取りまとめて出して頂いたものが中心になっているかなと思います。あとはアンケートを実施したりして、事業の継続を検討したりとかっていうことはさせて頂いているんですけど、そういうものを数値化したものはないのかなっていう感じで認識しています。</p>
堀内教育委員	<p>わかりました。ありがとうございます。ものすごい大分昔になるんですけども、自治会にやって欲しいことの質問表みたいも物が来て、町内単位で、うちの町内の道路に穴が空いてるとか、どこのおばあさんが老人ホームを探しているとかっていうような、そんなような調査票みたいなものが来たことがあったんですよね。本当に地域の意見を汲み上げるっていう部分では、町内単位から、そういうような意見を汲み上げて欲しい</p>

遠藤町長	<p>など思われます。特に、地方と言いますか、振内も貫気別もそうなのですが、どうしても行政との距離があるんですよね。役場の職員の方の名前も知らないとかそういうような人たちがいっぱいいるものですから、その部分のそういう意見の汲み取り方っていうのが、本当にこれから丁寧にしていかないと、ますます高齢化と過疎化で少なくなっていくと思われますので、その部分で、こういう計画を立てるときにそういう部分の意見を汲み上げて欲しいと思います。以上です。</p>
堀内教育委員	<p>そうですね。改めて、今回、この説明会としては3地区ということで、実態としては、なかなか集まって頂けないということもあって、もっと頻繁に、やることも大事なのですが、いろいろと反省をして、今回3地区だったんですけど、以前、私がこの立場になった時に、夏場に、各自治会を回ったという経緯がありまして、予算の組み立て上、そのぐらいに頂かないと、なかなか次の年の計画に反映できないというようなところもあって、来年度から、またそういう方向も考えようかということも思っております。ただ、自治会によっては毎年のように要望されている自治会もありますので、その辺は遠慮しないで言って頂ければ、受け止めさせて頂いてと思っています。</p>
遠藤町長	<p>自治会長が、一生懸命に行政に意見を言う地区と、すごい格差があると思うので、そういう部分で言いやすいような環境を作って欲しいなど思われます。ぜひよろしく願いいたします。</p>
山田まちづく り課長	<p>その他ございますか。よろしいですか。それでは時間もちょっと押してきておりますので、最後の平取高校の魅力化を図り存続させる会についてということで、説明を差し上げます。</p>
山田まちづく り課長	<p>はい。それでは資料5について説明いたします。まず1ページ目なんですけども、取り組み状況ということで、令和4年11月30日に1回目の平取高校の魅力化を図り存続させる会議を行ったんですけども、それまでの取り組み状況について時系列でまとめています。事前の打ち合わせ、アンケートの実施、議会説明、委員の一般公募と視察研修の取り組みについて記載しておりますので、お読み取りいただければと思います。2ページ目をお開きください。2ページ目から3ページ中段にかけて、存続させる会の規約と名簿を掲載させていただいております。町3役、高校の校長、教頭、町議会議員、平取高校のOB、公募という構成になっておりまして、その他に外部有識者の方3名を選びまして、アドバイスを頂く形態としております。今後、必要に応じてオブザーバー等も委員会に招集したいと考えておりまして、第2回目の委員会の際には、日高教育局の方から「ぜひ参加したい」というふうにお声掛け頂いているとこ</p>

ろでございます。そのほか、高校の先生の方ですとか、いろいろな部会みたいなこともやっていければというふうに考えております。3 ページの中段に高校の生徒数の推移を掲載しております。現在、高校生 43 名で、令和 2 年に新生が 20 名を下回っています。以降グラフのとおり、19 人、15 人、11 人と、1 学年のところを見ていただくと分かるんですけど、減少している状況となっています。4 ページ目お開きください。4 ページ、5 ページのところは、高校に関する各種データの掲載となっております。この辺については、お読み取りを頂ければと思いますので、よろしくお願いいたします。6 ページ目お開きください。編成推計ということで、今後の中学 3 年生の人口推計から、入学者数 20 名確保に必要な内部進学率をグラフ化したものとなっています。棒グラフが中学 3 年生の生徒数で、折れ線グラフが 20 名に必要な内部進学率というふうに見ていただくようなグラフなんですけども、令和 4 年度の地元への進学率は 24% となっています。単純に地元進学率を倍にしないと 20 名程度の確保が難しいという状況になっています。また、グラフを見て頂くと分かるのとおり、少子化が進む中では、中三の子自体が 20 名程度に減少する見込みですので、存続に向けては、内部進学率の向上だけでは難しく、町外からの生徒の確保ということも検討する必要があるかと考えております。6 ページ後段からなんですけども、今後の取り組みについて記載しています。ご存知の通り、高校については道の配置計画において、地域連携特例校に位置付けられておりまして、第 1 学年の在籍者数が 20 人未満となって以降、再編整備留保の対象となっています。今後、地域連携特例校であっても、報道がありました穂別高校のように、2 年連続して入学が 10 人未満となってしまった場合は、募集停止となってしまいます。平取高校の入学者数は、令和 4 年度で 11 名。先ほどの希望状況調査では 12 名。そのあとの直近の情報で 13 名という話がありましたけど、その辺見込まれているので、ぎりぎり募集停止の要件は上回ってるんですけども、今後もかなり厳しい状況と言えらと思います。7 ページ中段以降はこれからの高校づくりに関する指針について記載しております。高校再編整備に関する直近の方向性が示されている指針となっております。太字に下線を引いて示しているのとおり、1 学年の在籍者数が 20 名未満になった場合は、取り組み集中期間を設けて、その取り組み期間で、再編整備について判断されるということが示されています。11 月 10 日に日高管内でこの道の指針について意見交換会がリモート開催されまして、遠藤町長、庄野教育長、鈴木校長も出席をされております。それぞれ意見を述べられております。鈴木校長は意見掲載

してないんですけど、これから紹介するアンケートについて発言をされてまして、「高校でどんなことが取り組めるか」ですとか、そういったことを発言されていたかと思います。遠藤町長については、「この集中取り組み期間を設けて再編整備について検討というのを受けて、この辺は20人未満が2年連続となっても、弾力的に考えていただけるのか」というふうに尋ねておりまして、8ページにある通り、道教委の回答としては、集中取り組み期間については一律何年という明示はしないと。地域の実情を考えて、それに応じて検討したいというふうに回答があったところです。地域の実情というのが地元の進学率、道外からの入学者の増と入学見込み者の存在がどれぐらいあるのか、この辺を中心に判断するという発言をされておりました。これと関連して、庄野教育長の方から、「集中取り組み期間について、年数を設けないということなんですけれども、具体的に地域との協議はどのように進めていくのか」ということで質問していただいて、この辺は、個別に相談したいということで、道から回答があったところです。日程等はまた改めてということでもございました。最後に、今後の道外からの受け入れを行う場合のスケジュール感ということで書いてあるんですけども、当然、もう令和5年度からは間に合わないんですけども、令和6年から、もし道外から受け入れをしたいと考えた場合のスケジュールなんですけれども、入試改定原案っていうものを作って、その改定の受け付け期間が3月までで、4月には改定報告っていうのを道にしないと駄目というスケジュール感になっております。ですので、あと何ヶ月かで道外募集をするかを判定して、ある程度書類を整えないと駄目な部分もあるということになっています。令和6年2月から具体的な教育課程の改定の報告等を行って、令和6年から道外募集ができるというようなことで、結構タイトなスケジュールになっているかなというふうに思います。参考と書いてあるのは、道外募集に係る制度の変更に関するパンフレットとなっています。そのあと町民アンケートの結果を掲載しているんですけども、町民アンケートについては、8月ぐらいだったと思うんですけども実施をしまして、回答が241件ありまして、うち中学のお子さんがいらっしゃる方からの回答は23件ということになってまして、最初の方では高校について、どれくらい分かっているか、高校について知ってる知らないっていうことを取り組みをはじめ、置かれてる状況等について伺っているような設問となっております。2番目からはその状況で今高校生が減ってて、この再編整備留保になっていることですか、そういったことまで、ご存知ですかというようなことを聞いて、高校の現状について、地元住民の方がどれ

ぐらいご存知かっているのを確認したような内容となっています。その上で 241 名。中学生のお子さんがある、いないにかかわらず、客観的に、させたい理由と、させたくない理由っていうことで聞かせていただいております。させたくないっていうところでは、一番多いのが、卒業後の進路に不安を感じるからということで、答えられているということでございます。その他は記載のとおり、いろいろな回答があるところなんですけども、高校としては、この卒業後の進路に不安を感じるという部分については、平取高校でも十分対応ができると考えているということで回答を受けています。子どもの環境を変えたいですとか、やりたい部活があるっていうことだと、なかなか、当然ながら平取高校で、それを実現させることは難しいんですけども、それ以外のことは対応したいと考えているということで、意見交換会でも発言をされていたところです。これからのことなんですけども、存続して欲しいってのが、114 で一番多い形なんですけども、少ないのであれば、閉校も仕方がないかなという方も 107 名いらっしゃるっていうことなので、我々としてはこの 107 名の方を存続して欲しいっていうふうな意見になっていただいて、地域の機運が高まるように取り組みを進めたいと考えているところです。そのほか、アンケートについてお読み取りいただければと思いますのでよろしくお願いします。最後 3 ページぐらいついてるんですけども、こちらが、前回の 11 月 30 に開催した委員会の会議の要旨となっています。これも後程お読み取りいただきたいと思うんですけど、1 回目の委員会ということで、今申し上げたような高校の状況なんかを、全体で共有してざっくばらんな意見交換を行ったような内容となっています。2 回目以降は、本格的な検討に入っていきたいというふうに考えておまして、また 4 年度中には、地域住民の方に参加いただきたいなということで、シンポジウムの開催なんかも考えていますので、その辺も進めていければというふうに考えております。以上、簡単で雑駁ですが、高校の魅力化に関する説明といたしますよろしくお願いします。

遠藤町長

今、なかなか進まないところもありましたけれども、こういうような状況で、その魅力化に向けて、議論といいますか、検討が始まったというふうなことです。和田委員の息子さんにも参加頂いて、いろいろご意見を頂いております。本当に、地元進学率が、これから卒業生 20 人なんていう時もきてしまうというようなこともあって、ただ、この町から高校がなくなるということの大きなダメージといいますか、その統計的なものにも、ほかの例ですけども現れているということであって、可能な限り、行政としても存続に向けて、魅力化を図りたいというふうに思っ

おります。私、10月に先進事例ということで、他の視察もあったんですけども、四国の弓削高校と神山高校の2校に、担当と視察に行きまして、本当に小さな町の取り組みを視察させていただきまして、本当に実感として、これは、無理なことではないんじゃないかなっていう事を感じたというふうなこともあって、どうしても外から受入れるということになりますので、その受け入れ方といいますか、ハード、ソフトにおいて、その辺の整備が重要になってくるんですけども、何とか高校の存続に向けて、今後もいろんな方の知恵もお借りしながらと思いますが、重要だと思ったのは、地域の存続に向けた思いといいますか、そういうのが重要だということをそれぞれの土地で感じたというなこともありますので、そういうことも含めて、今後いろいろとまた教育委員の皆さんにも、いろいろとご協力いただきながら、進めて参りたいというふうに思っています。よろしくお願ひしたいと思ひます。よろしいですか。ちょっと最後に、先程、教育長の方からも、振内中学校の学校統合に向けてのお話が出てきましたけれども、存続させる会ということで、私の方にも直接話したいということで、9人ぐらいの方が来られて、基本的にさっき教育長が言ったように、いろいろ存続に向けて、もっともっと議論を深めて欲しいというようなことが、基本的な存続させる会としての姿勢だったかなというふうに私も受けとめました。いろいろ心配してるところが、もう具体的にこれはどうなんだみたいなことも、いただきましたので、一つ一つそれに返してあげるといふか、そういう作業が重要なんだなと感じまして、やっぱりそぐわないところがどうしても出てくると思うんですけども、代替案をこうしようとか、そういうところまでの話で、目指すところに近づくといふか、そういう方法しかないのかなというふうに思っておりまして、中々、時間的に非常にハードな感じだなということになりますけれども、何とかそういったやりとりといいますか、そういうのを深める作業が、非常に大事だなと思っています。町としても、代替案等のことに関して、いろいろ予算の問題とかそういうのあれば、町としてもいろいろと連携して検討して参りたいというふうに思っていますので、いろいろとそういう対応が大変でしょうけれども、宜しくお願ひします。他ございますか。よろしいですか。それでは長時間にわたり、いろいろなご議論ありがとうございました。今日いただいたご質疑や意見等、また持ち帰って、事業等に反映させるところは反映するような形で検討させて頂ければと思っています。今年1年本当にありがとうございました。